

| | |
|---|--|
| 学 | 主査：看護学分野教授 安保寛明 副査：看護学分野教授 齋藤美華、副査：理学療法学分野教授 石川 仁 |
| 位 | 新規性・有効性 |
| 論 | <p>高齢者が日々の活動に前向きであることは、主観的健康感や主観的幸福感の向上、生きがい形成の実現に寄与するという観点から重要である。この研究では活動への前向きさとして Engagement に注目し、4 か国語以上で信頼性と妥当性が検証された尺度で集団活動による介入の効果測定などにも使用実績のある EMAS (Engagement in Meaningful Activities Survey) の日本語版 (EMAS-J) の開発を行った。高齢者の活動に関する Engagement を測定する尺度は本邦には存在していないため、新規性が高い。また、すでに実績のある尺度の日本語訳という面で本研究の成果を速やかに国際比較研究等へ波及させることができ、有効性が高い研究である。</p> |
| 文 | 信頼性 |
| 審 | <p>この研究では、尺度の信頼性の検証には内的一貫性として Cronbach の α 係数の算出と項目合計相関分析 (IT 相関分析) を用いており、さらに再検査信頼性の検討のために 2 週間の期間をおいて調査時と再調査時の EMAS-J の合計得点について重み付け κ 係数の算出を行っている。さらに妥当性の検討には収束的妥当性の検証に SF-36, CES-D, MLQ といった基準関連尺度を用いて、因子分析によって抽出された因子構造を用いて、EMAS-J (全体と各因子) と基準関連尺度の得点の相関係数を算出した。これらの分析方法は研究目的に鑑みて適切である。さらに、これらの分析手法を選択した根拠が論文中に引用文献とともに明示されており、統計学的な信頼性を担保するのみならず執筆者による十分な理解の上で記述されていることを証するものである。</p> |
| 査 | <p>なお、本研究では調査協力を求める手法としてコミュニティセンターなどでの対象者の募集を行っている。すなわち、援助関係の援用などを行わずに地域在住高齢者の自発的な協力によって研究を実施しており、倫理的配慮の面でも信頼性の高い研究である。</p> |
| 結 | 総評 |
| 果 | <p>前述のような信頼性の高い手続きによって作成と検証がされた EMAS-J は、地域在住高齢者への使用について信頼性と妥当性を備えた尺度であることも明らかとなった。また、論文中に調査と分析の手法が根拠とともに明示されているため、この分野の研究が発展する上でこの研究および論文が多く研究者によって参照され、当該分野の発展に大きく寄与することとなるだろう。なお、口頭試問においても審査委員の質問に適切に回答したのみならず、検討が必要な事項を適切に検証して論文へ反映させ、当該研究の責任者として過不足ない応答を行った。</p> |
| 要 | <p>審査委員は、論文構成、背景の整理と問題設定、結果および考察、引用文献の適切性について慎重に検証し、博士論文として適切な水準に至っていることを確認した。本論文は博士論文に値する内容であると評価し、一致して学位論文審査及び最終試験に合格と判断した。</p> |
| 旨 | |